たを工夫し，手振りも入る。アドリブ続出，笑いも続出の賑やかな時間になった。

第三に，態度変容について。

ビンゴゲームに際して，「地球を救うためにその気になれば簡単にできること」を各自25書いたが，その時点では，単なる思いつきで書かれたものが多かった。しかし，標語をつくり，壁新聞を作成して他への呼びかけをおこなうなかで，自己の暮らしを見直そうとする生徒が少しずつ増えている。その1つのあらわれが，前述のアンケート結果である。授業後1か月を経て，80%以上の生徒が「新聞広告のウラをメモ用紙に使う」「歯みがきのときは水道を止める」「使わない部屋の電気は消す」など，何か1つ以上のことを心がけている。ささやかな態度変容である。

大津和子著
『国際理解教育』国土社

6 貿易ゲーム

3 世界の貿易

F-2

(1) 単元の目標と計画

イギリスの開発教育教材の中に「貿易ゲーム」を見つけた。実におもしろい。このゲームなら，生徒は夢中になるだろう。経済的に貧しい国，豊かな国のそれぞれの立場で悔しさや怒り，優越感や喜びといった感情を経験できる。豊かな国はますます豊かに，貧しい国はますます貧しくなっていくのはなぜか，を身をもって理解できる。

しかし，ゲームはゲームでしかない。現実の中から1つの要素だけを取り出してシミュレートしているにすぎない。「南」と「北」の貿易が実際にはどのように行われているのかを理解するために，身近なコーヒーを事例として取り上げる。コーヒー貿易を通じて，発展途上国の生産者と私たち消費者のつながりを認識し，これまでにない新しい（オールターナティブな）貿易のありかたを知る。

そこで，単元の目標を次のように設定する。

a　発展途上国の輸出する一次産品の交易条件が先進工業国の輸出する工業製品に比べて劣るため，発展途上諸国が現存の国際経済秩序の変更を要求していることを理解できる。（知識理解）

b　統計資料（グラフ・図表）から，必要な情報を読み取ることができる。（技能習得）

c　身近な食品や生活用品などを通じて，発展途上国の人々と私たちとのつながりに関心をもち，経済格差を少しでも是正するために消費者として何ができるかを考えようとする。（態度変容）

単元の計画は次の通りである。

時	段階	主な発問・よびかけ	学習活動	資料
1	問題の把握 ①貿易ゲーム	貿易ゲームをしよう。 どのような行動をとったか。 どのような感想をもったか。	貿易ゲームをする。 ミニレポートを書く。	
2 〜 3	問題の追求 ②コーヒーとトラクター	貿易額はどのように推移しているか，なぜか。 コーヒー輸出国の貿易の特徴は？ どのような不都合があるか。 コーヒー国際価格はどのように推移してきたか，なぜか。	資料を読み取る。 資料を読み取る。 資料を読み取る。	グラフ 図表 グラフ
4	解決への模索 ③アフリカフェ	コーヒー生産者の生活向上により役立つ貿易のしかたは？	図表をヒントに考える。	図表

(2) 貿易ゲーム[2)]

これは，材料（原料）や道具（技術）を不平等に与えられたグループの間で，できるだけ多くの富を築くことを競うゲームである。貿易が豊かなグループをより豊かにし，経済格差を拡大することを実感するとともに，ゲームの中で経験する苛立ちや無力感，あるいは優越感などの感情を通じて，発展途上国の立場を共感的に理解することができる。

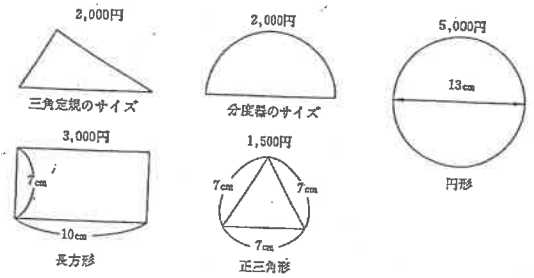
【準備するもの】

Aグループ（4セット）		Bグループ（4セット）		Cグループ（4セット）	
ハサミ	2本	定規	1つ	鉛筆	1本
定規	1つ	分度器	1つ	ザラ紙（B4）	5枚
三角定規	1つ	ザラ紙（B4）	10枚	百円紙幣	10枚
分度器	1つ	シール	1枚	国名カード	
コンパス	1本	百円紙幣	30枚	ウガンダ，ルワンダ，タンザニア，バング	
鉛筆	2本	国名カード			
ザラ紙（B4）	1枚	中華民国，ブラジル，アルゼンチン，韓国		ラデシュ	
百円紙幣	50枚				
国名カード					
イギリス，フランス，日本，アメリカ					

以上の品物を1セットずつ紙袋に入れ，見えないように封をする。

銀行用の記録用紙　1枚（各グループの生産額を記入する）

次の製品の見本図を教室に貼る。



【グループ分け】

各グループの人数はできるだけ平等で，3〜4人がよい。人数が多すぎると，材料や道具の不足のために活動できない生徒が増え，人数が少なすぎると生産に追われて全体の状況を観察する余裕がなくなるからである。

作業ができるように，グループごとに机を配置する。

【ルールの説明】

「今日は，グループに分かれてゲームをします。各グループの目的は，与えられたものを使ってできるだけ多くの富を築くことです。富は製品を生産することによってつくられます。製品の形とサイズは，見本図に示された通りです。

各製品は見本図に示されている価値をもっています。製品を世界銀行にもっていくと，品質が点検されたうえで，その金額がグループの口座に振り込まれ

ます。製品は好きなだけ生産できます。時間は30分間です。

次の点に注意すること。配られた袋の中のものしか使えません。世界銀行にもっていく製品はすべて正確なサイズで，ハサミを使ってきちんと切られていなければ製品として認められません。

世界銀行は，ゲーム前とゲーム後の各グループの富を記録します。グループが製品をもってきたら，用紙の該当する欄に製品の金額を記入します。ハサミを使わずに切ったものや，サイズに狂いがあるものは受け取ってはなりません。

なお，教師はゲームの展開をよく観察し，とくに取り引きの条件，興味深い行動や発言などを記録する。また，ゲームの進行に刺激を与えるために，のちに述べるような新しい要因を導入する。

さて，いよいよゲームの開始である。

各グループの代表が一人ずつ出てジャンケンし，勝ったグループから紙袋を選び，一斉に持ち帰る。

「ゲーム開始」の合図をする。

ゲームがはじまると，ざわめきがおこり，「ハサミがないがどうすればいいのか」「シールは何のためにあるのか」といった質問が続出する。これらの質問には答えず，ただルールの説明を繰り返すにとどめる。

Aグループは材料と道具がすべて揃っているので，すぐに製品を生産しはじめる。材料がなくなると，他のグループから紙を手に入れようとする。

道具が揃っていないB・Cグループは生産をはじめることができず，他国のようすを見るためにウロウロしはじめる。何をしていいかわからず呆然としているグループもある。

このとき，各グループがどのような態度で交渉しているか，交易条件はどのようなもので，どう変化しているか，各グループでどのような作戦が立てられ，どのように達成あるいは挫折しているか，どのような同盟が結ばれているか，どのような不正が行われているか，どのような援助が行われているか，などを教師は注意深く観察しておく。

生徒たちの活動が不活発になると，教師は次のような新しい要因を導入する。

ア　製品の価値を変える

銀行がある製品をたくさんもっているとき，その製品の市場価値が下がったと大声で伝える。逆の場合には上がったという（たとえば「長方形は千円に下がった」）。これは，国の経済が1つの産品の輸出に大きく依存しているケースである。たとえばゴムや銅の市場価値が下がれば，マレーシアやザンビアの経済は大いに影響を受ける。

製品価値の変化はさらに，道具の価値をも変化させる。たとえば，円形の製品の価値が下がるとコンパスが以前ほど有益ではなくなる。現実の世界でもこうしたことが起こる。

イ　材料や技術の供給を増やす

あるグループに特別に紙の供給をし，原料の新しい埋蔵が発見されたと皆に告げる。これは，石油などの鉱物資源の埋蔵が発見されるケースである。

ウ　シールを使う

3つのグループが色のついたシールを1枚ずつもっているが，何に使うのかは知らない。教師がAグループに，「シールを製品に貼るとその製品の価値が2倍に上がる」とこっそり教える。これは，原料をもっている国がその価値を認識しておらず，他の国がその原料を安く買って，巨大な利益を手に入れるというケースである。

ゲーム終了後，銀行はゲーム前とゲーム後の各グループの金額を合計し，黒板に書いて皆に報告する。

国名 富	日本	アメリカ	イギリス	フランス	韓国	中華民国	ブラジル	アルゼンチン	タンザニア	バングラデシュ	ウガンダ	ルワンダ
生産額												
資産額												
合計												
順位												

ゲームの結果は，全般的傾向としては，Aグループ・Bグループ・Cグループの順に大きい富を築いたが，Cグループの国が4位になったり，Aグループの国が8位になったりという予想外の成績をおさめたグループもある。

ゲーム中にどのような行動をとり，どのような感情をもったかについて，生徒たちは次のように書いた。

A「ハサミや定規を貸したりしてもうけた。みんなが借りにくるから楽しかった。自分が人の上に立った気分になった」（フランス）

B「自分のところにすべてがそろっているので，取り引きするとき，ただもうけることばかり考えて，とてもケチになった」（イギリス）

C「なにか得したような気がした。自分の力で相手の国が商品ができるかできないかを左右する力があると思った。競争であったため，弱い国を保護しようと思わなかった。自分たちの商品づくりに一生けん命で周りが見えなかった」（日本）

D「物を貸してレンタル料をがっぽり取った。自分たちはたいしてつくらないけど，お金はけっこうあった。金持ちの国はたくさんもってるのに，それ以上のものがほしくなるものだなーと思う。だいたいやりかたがせこい」（日本）

E「他の国が苦しんでいるのに自分とこだけ大もうけで楽しく，思わずおごりたかぶってしまいました。いま思えば何とひれつだったんだろうと思います。もっと他の国の身になって貸してあげるべきだったと思います」（アメリカ）

F「秘密情報を2000円でブラジルに，1000円で韓国に売った。タンザニアに行って定規と紙を交換した」（イギリス）

G「三角定規とお金をとられた。盗みがはやっている。世界の平和を守る機関がほしい」（フランス）

H「日本がひそかにあくどいことをしたところを見たので，口止め料をもらった」（韓国）

I「いろいろな国が同盟を結んでいた。私たちももっと行動的にすればよかった」（アルゼンチン）

J「はじめ何もなかったので，がんばって分度器を借りて，そればっかり20個くらいつくっていこうとしたら，いきなり500円に暴落してあせった。ぜんぜんお金がなくてさびしさのあまり，フランスからハサミをぺちってしまった」（タンザニア）

K「ハサミが借りれなかったので何もつくれなかった。他の国にぜんぜん相手にされなかった」（ウガンダ）

L「びんぼー国はおもしろくなかった。植民地はつらい。豊かな国がとてもうらやましかった」（バングラデシュ）

M「いちばん最低の国があたってしまって，何もないのでどうしたらいいかわからなかったが，他の国と仲良くなっていたので助かった。友好関係は大切だということがよくわかった」（ルワンダ）

N「いま自分は日本に住んでいるけど，貧乏な国では多くの苦労があることがわかった。やっぱりお金はものをいうし，信用度も少なく，もしこれが本当の世界であったなら自分はすごくつらいと思う。なんか，その国の人の気持ちが少しわかった」（タンザニア）

なお発展段階として，次のように第2回戦を行うことができる。

このゲームは現実世界における先進工業国と発展途上国の間の貿易関係をあらわしたものであることを説明したうえで，「より公平な貿易を行うためにはゲームのルールをどのようにすればいいか」を生徒に尋ねる。「原料の価格を一定に維持するために協定を結ぶ」，「グループ間で協力関係を築く」，「道具がなくてもつくれる製品をつくってもいいことにする」などの案が出されるだろう。ルールを学習者自身が新たにつくり，ゲームの2回戦を行うことにより，貿易のあるべき姿を追究することもできる。

ところで，シミュレーション・ゲームには必ず限界が伴う。このゲームでは貿易の側面だけが単純化して扱われているにすぎず，実際には各国の経済的・政治的状況によっても貧富の差が生じる。また「貿易ゲーム」は，現実の自由主義経済体制下における一般的な行動原理を解明するには有効であるが，「近代化パラダイム」[3]以外の方向を導き出すことはできない。しかし，たとえば経済

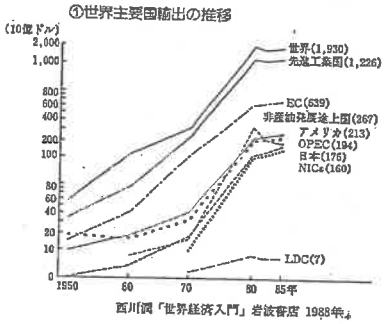
的な富より価値のあるもの（精神的豊かさなど）を組み込むことにより，「競争原理」の他に「生活原理」にもとづいた生きかたもあることに気づかせることができる。（たとえば，Dグループをつくりその紙袋に「のんびりゆったり過ごしなさい」という紙片だけを入れておく。Dグループの国がのんびりゆったり過ごすことに価値を見出すか，それとも他のグループと同じように何とか生産活動をしようと努力するか，いずれにしても経済的豊かさだけがすべてではないことに気づくきっかけとなる。）

(3) コーヒーとトラクター——南と北の貿易

ここでは，第二次世界大戦後の世界貿易がどのくらい拡大したかを概観したのち，劣悪な交易条件が今なお発展途上国にとって大きな問題であることを，具体的なコーヒー貿易の事例から学習する。（以下，教師の発言だけを記す。）

『前の時間におこなった貿易ゲームから，いくつものことがわかりましたね。まず，手持ちの道具や原料が十分になくて生産しようにもできないグループが，交易（ここでは貸借も含む）をはじめました。もし交易をしなければ，全体で生産される製品の量はわずかですが，交易をおこなうことによって全体の生産

①世界主要国輸出の推移



西川潤「世界経済入門」岩波書店 1988年。

量は著しく増大しました。ここに交易の意義があります』

『それでは現実の世界貿易の推移を見てみましょう（68ページ資料①）』

『グラフのタテの目盛りに注目してごらん。等間隔に目盛りをとると，どのような折れ線グラフになるでしょう』

『輸出総額が急激に増加していることがわかりますね』

『先進工業国間の貿易を水平貿易ともいいます。水平貿易が著しく増大している背景には，高所得国での多様なニーズにもとづく需要の増大があります。たとえば，歌なら何でもいいというのではなく，アメリカのロック歌手のレコードが欲しいとか，イギリスのビートルズがいいとか，消費者のいろいろな好みに応えようとするとそれだけ貿易が盛んになります。自動車やファッションでも同じです。自国にないものを外国から輸入する。国境を越えて商売が成り立つからです』

『発展途上国と先進工業国との間の貿易を垂直貿易ともいいます。皆さんの持ち物の中にどのような輸入製品がありますか。韓国製のトレーナーや台湾（中華民国）製の運動靴……。最近では焼き鳥をタイから輸入しています。自国でも生産できるけれども外国から輸入する場合があります。なぜでしょう』

『そう，安いからですね。働く人々の賃金や原材料が安いと，輸送費をかけてでも輸入したほうが利潤が大きくなります。もちろん，気候・資源・技術などの関係で，自国で生産できないものを発展途上国から輸入することもありますが。』

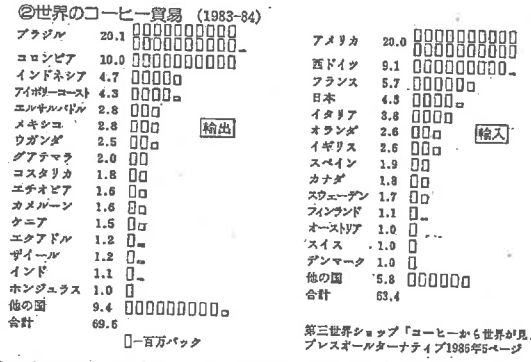
『今日は，皆さんにも馴染みの深いコーヒーの貿易をとりあげます。コーヒーは世界の60数か国で生産され，2千万人の人々に雇用を提供しています。（ここでコーヒーの栽培方法や生産者の生活について話す。[4]）コーヒーは，国際貿易の中で石油に次いで2番目の貿易額をあげている，きわめて国際性の高い商品です』

『資料②は，コーヒーの国別輸出量と輸入量をあらわしています』

どんなことに気がつきましたか？』

『そう，コーヒーを輸出しているのは発展途上国で，輸入しているのは先進工業国ですね。今や私たちの生活に欠かせないコーヒーは，発展途上国でつくら

②世界のコーヒー貿易（1983-84）

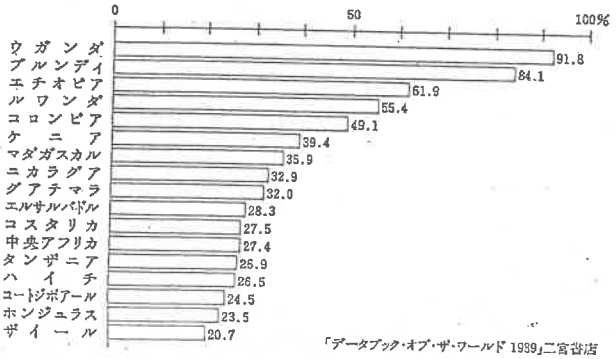


第三世界ショップ「コーヒーから世界が見える」プレスオールターナティブ1986年5ページ

れているのです。世界のコーヒーのうち，78%が先進工業国で消費され，生産国で消費されるのはたった22%です。そのうち，ブラジルで約半分が消費されます（ブラジル人は1日平均10杯飲むほどのコーヒー好き）から，コーヒーをつくっている多くの人々の口には入らないことになります』

『資料③を見てごらん。どんなことに気がつきましたか？』

③輸出額におけるコーヒーの割合

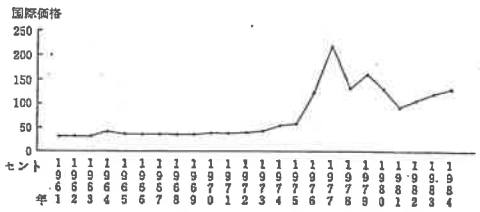


「データブック・オブ・ザ・ワールド 1989」二宮書店

『そう，全輸出額の2分の1以上をコーヒーが占める国が，ウガンダを筆頭に4か国，4分の1以上を占める国がコロンビア以下10か国あります。このように，経済が特定の一次産品の輸出に大きく依存していることは，どのような不都合をもたらしますか？』

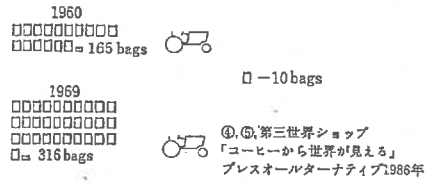
『そう，皆さんが貿易ゲームで経験したことですね。ゲームでは，理由もなく突然にある製品の価格が暴落しましたが，現実の商品の価格はさまざまな理由で変動します。それではコーヒー価格の推移を資料④で見ましょう』

④国際コーヒー（ロースター）価格　ポンド当たり



『このグラフからわかるように，コーヒーの価格は1961年から1970年代前半まではほとんど横這いです。資料⑤を見てごらん』

⑤コーヒーとトラクター



④,⑤,第三世界ショップ「コーヒーから世界が見える」プレスオールターナティブ1986年

『この資料が何を意味しているかわかりますか？』

『そう，1960年には1台のトラクターを買うのに165袋（1袋は60kg）のコーヒー豆が必要でしたが，1969年には316袋が必要となりました。コーヒーの価格は実質的には2分の1に下がったことになります。コーヒーの実質価格がこんな

にも下がったのはなぜでしょう？　どのような原因が考えられますか？」

「そう，貿易ゲームでも体験したように，まず需要と供給の関係が考えられますね。先進工業諸国では，コーヒーを飲むことが次第に習慣となりつつあり，コーヒーの需要は年間に2％ずつ伸びています。

しかし，コーヒーの供給はそれほど安定していません。コーヒーは世界60数か国で生産されており，輸出すべき資源や工業製品を生産するのに必要な技術や資本を十分にもたない国々が，やむをえず輸出の大きい部分をコーヒーに頼っています。そのためいきおい供給過剰になり，よい収穫をあげた年にはコーヒーの価格は下がり，逆に収穫の悪い年にはコーヒーの価格が上がりますが，輸出量が少ないので収入が増えることにはなりません。

さらに，コーヒーの収穫量は悪天候とくに霜や豪雨の影響を受けやすく「葉のさび病」という伝染病のために収穫が激減することもあります。コーヒーは需要と供給のバランスを保つのが非常に難しい商品であるといえます」

「そこで，あなたたちがコーヒー生産国の指導者なら，どのような方策をとりますか？」

貿易ゲームでの体験から，コーヒー生産国が協定を結ぶという案などが出される。実際「国際コーヒー協定」が結ばれたのである。

ここで「国際コーヒー協定」について説明する。「国際コーヒー協定」はアメリカのケネディ大統領により，ラテンアメリカ諸国の経済成長と社会主義勢力の伸張阻止を意図して提案されたもので，「国際コーヒー機構」（42の輸出国と17の輸入国が加盟）によって運営され，1963年から実施された。コーヒー価格を安定させるために輸出量の割り当てをおこない，世界の市場に出回るコーヒーの量を調整する機能をもっていた。その結果，コーヒー価格の大きな変動は見られなかったが，それは同時にコーヒーを低価格で安定取り引きさせる方向に作用した。この時期，先進工業国では急速なインフレが進行していたからである。

さらに，「国際コーヒー協定」そのものにも問題があった。「国際コーヒー機構」内部での投票権は，売買されるコーヒーの量に応じて決められていたから，

世界のコーヒーの約40％を輸入するアメリカが394票，20％以上を輸出するブラジルが336票をもって絶対的決定権を握り，輸出額に占めるコーヒーの割合が高いが輸出の絶対量の少ないアフリカ諸国の発言力は皆無に近かった。また輸出量の割り当て制度は，生産量を増やそうとしていた国には不満を残すことになった。1972年，米ドルで表示されていたコーヒーの最低価格が，米ドルの平価切り下げによって自動的に低くなったことを機に，「国際コーヒー協定」は崩壊した。

おりしもこの時期，OPECが原油価格を大きく引き上げようとしていた。これにならって，コーヒー輸出国もコーヒー国際価格の引き上げを試みた。しかし，成功しなかった。なぜか。コーヒーと石油には決定的な違いがあるからである。第一に，石油は産業の発展に必要な資源であるのに対し，コーヒーは嗜好品である。石油は高くても輸入せざるをえないが，コーヒーが高ければ紅茶など他の飲み物で代替することができる。第二に，石油は限られたところに産出する資源であるが，コーヒーは世界の多くの地域で栽培することができる。第三に，石油は蛇口を閉めて地下に蓄えておくことができるが，コーヒーは2千万人の労働がかかわっている産業であるため一時的に生産を落とすことは困難で，蓄えたとしても3年たつと品質の低下を免れない。つまり，石油のように生産国の一方的な通告によって，コーヒーの価格を高値安定させることは不可能であることがわかったのである。そこでコーヒー生産国は，消費国も含めたかたちの新たな協定（62か国）を1976年から実施した。基本的には先の「国際コーヒー協定」と同じで，コーヒーの国際価格が下がった場合に，生産国の輸出制限によって価格の維持を図ろうとするものである。

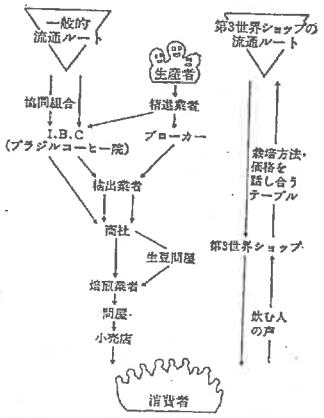
その結果，1975年からのブラジルの霜害・コロンビアの洪水・アンゴラの内戦による供給減少・価格高騰後の生産過剰・価格低落期（1981年）にも一定の水準を維持することができた。しかし，発展途上国が先進工業国から輸入する工業製品と比較すると，発展途上国の輸出する一次産品は価格が低いことに変わりはない。たとえば，スリランカが1台のトラクターを輸入するのに必要な紅茶は，1972年には5トンであったが，1982年には13トンになっている[5]。

こうした一次産品の交易条件悪化については，1964年にUNCTAD（国連貿易開発会議）でプレビッシュ報告が提起されて以来，多くの議論をうみだしてきた。さらに1974年には国連資源特別総会においてNIEO（新国際経済秩序）の構想がうちだされたが，先進工業国側は「世界経済の変革は市場メカニズムにゆだねるべきであり，重要なことは発展途上国が先進工業国に追いつくことである」という主張を譲らず，現状を大幅に変更する要求はすべて受け入れられていない。わずかに一般特恵関税制度やODAの増大などについてUNCTADで具体策が講じられ，南北間の交渉はひきつづき行われている。

さて，最後に再びコーヒーに戻る。

「コーヒーは一般的には次のような流通ルート（資料⑥）をへて，私たち消費者に届けられます。この流通ルートで，最も弱い立場で安い賃金を余儀なくされているのはコーヒー生産者です。この人たちの生活の向上に確実に役立つようにするには，どのような貿易のしかたが考えられますか？」

⑥コーヒー流通ルート（ブラジル）



第三世界ショップのパンフレットより

⑦アフリカフェ

「生産者と消費者が直接貿易をする」

「そう。実際に直接生産者から輸入されているコーヒーがあるのです。たとえばこの「アフリカフェ」（資料⑦）。値段は250グラム800円で，やや高めです。これは，生産者の自立を援助するオランダのグループが，タンザニア・モザンビク・アンゴラ・ベトナム・ニカラグアの生産者から直接コーヒー豆を買って加工し，世界各国の「第三世界ショップ」などを通じて売っているものです。

「第三世界ショップ」はコーヒーだけでなく，インドやスリランカの紅茶や第三世界諸国の民芸品なども扱っています。日本にも「第三世界ショップ」の商品をおいているところが北海道から沖縄まで80か所以上あります。これらの商品の売上金が第三世界の生産者の生活向上に役立つだけでなく，コーヒーや紅茶などのモノを通じて生産者と消費者のつながり＝ネットワークがつくられつつあるのです。このように，南北の経済格差をなくすために消費者としてできることがあるのですね」

残念ながら，日本ではまだ「第三世界ショップ」がどこの街角にもあるという状態ではないので，生徒たちが実際にでかけることは難しい。しかし通信販売は簡単にできるので，その方法（連絡先）を提示した。

(4)　生徒の受けとめかたと評価

貿易ゲームを楽しんだあと，生徒たちは次のように書いた。

「いつのまにか，富をきずくことに必至になっていた。単純なゲームなのに，不公平がよくわかって楽しかった」

「ドキドキした。最初のうちはゆったりしていたのに，だんだんみんなえげつなくなっておもしろかった。性格のいやなところがでてしまった」

「豊かな国にハサミを貸してもらえるようにたのむのがいやだったけど，そのおかげで金もうけできた。他の国ともっと協力すればよかった」

貿易問題の導入として，このゲームは効果的であった。

さて，単元の目標は達成されたであろうか。単元の目標は次の通りであった。